

令和2年度 さいたま市民意識調査 (概要版)

<調査項目>

在住者意識調査		在勤者意識調査
①地域での生活	④市政との関わり	①さいたま市のイメージ
②地域のイメージ	⑤市政への満足度・重視度	②市内での活動
③さいたま市のイメージ	⑥今の地域を選んだ理由	

<調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内の事業所に通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送回収法	
調査期間	令和2年7月20日～令和2年8月6日	
回収結果	有効回収数 2,691	有効回収数 634

<概要版の見方>

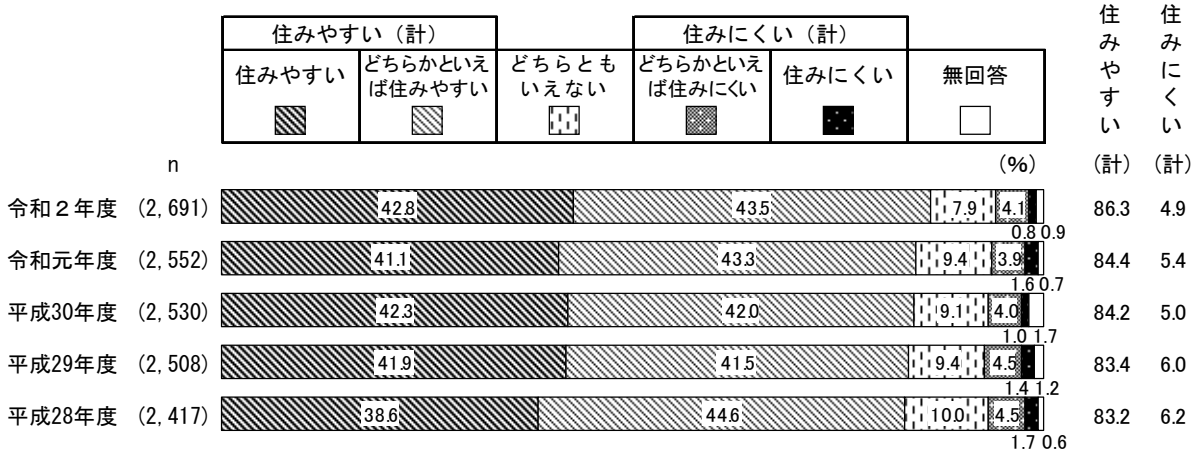
- 図中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、nを基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しました。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがあります。
- 図中で、在住者と在勤者の比較をしている場合は、在住者の順位を基準に示しています。
- 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。



★さいたま市は「住みやすいまち」ですか。

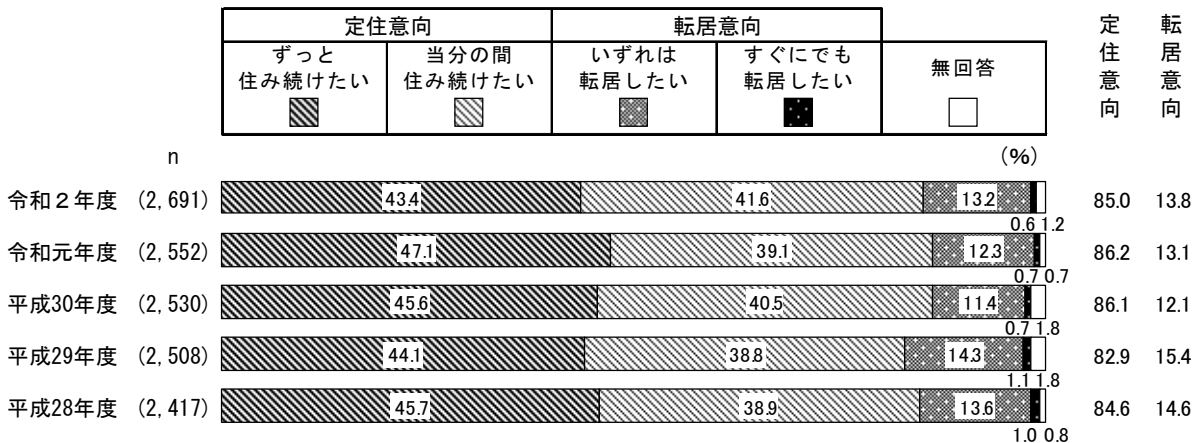
■住みやすい人は 86.3%

在住者が感じる地域の住み心地は、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい（計）』は 86.3%で、増加傾向にある。



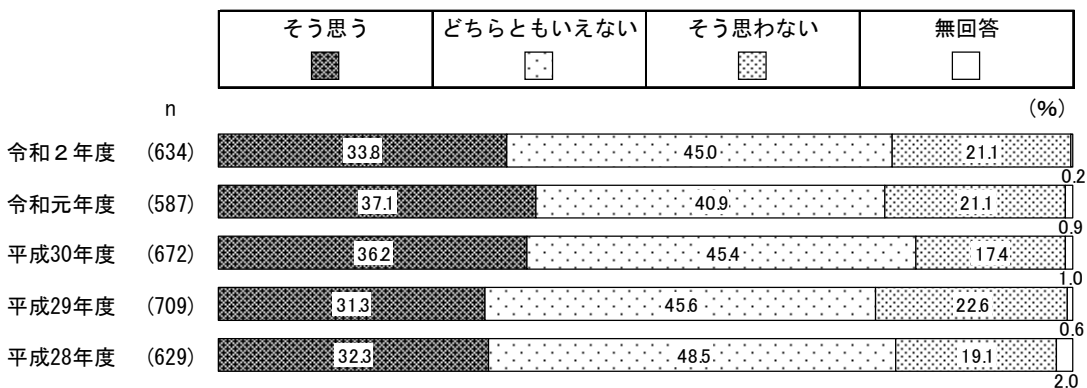
■住み続けたい人は 85.0%

今の地域に「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた『定住意向』は 85.0%で、8割半ばで推移している。



■住んでみたい人は 33.8%

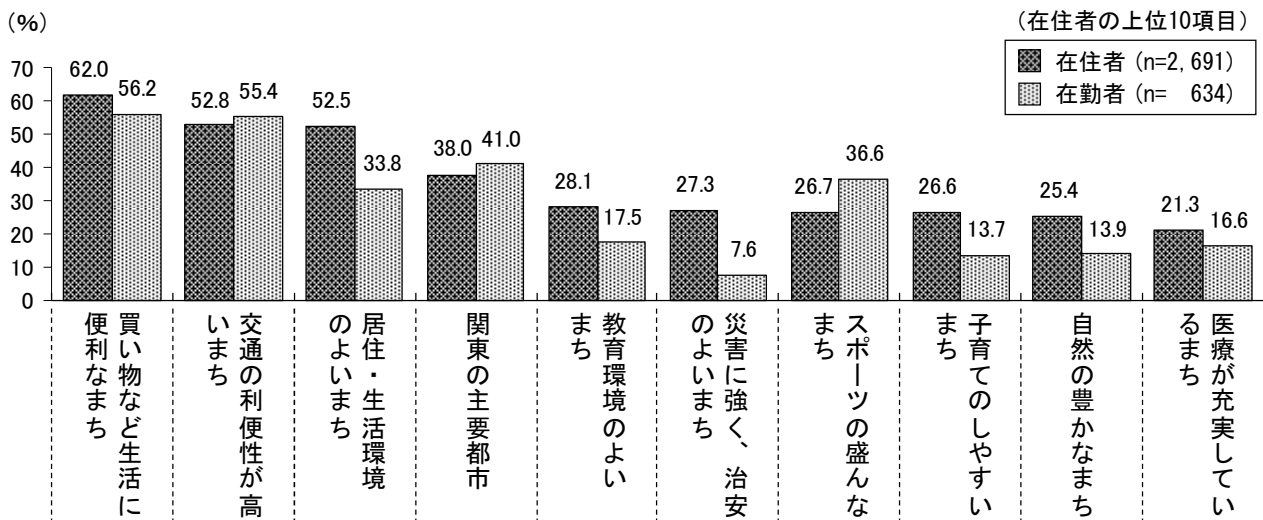
在勤者に、さいたま市は住んでみたくなるような都市だと思うかを聞いたところ、「そう思う」は 33.8%と、3割台で推移している。



★さいたま市にどのようなイメージを持っていますか。

■在住者・在勤者ともに5～6割が「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」と評価

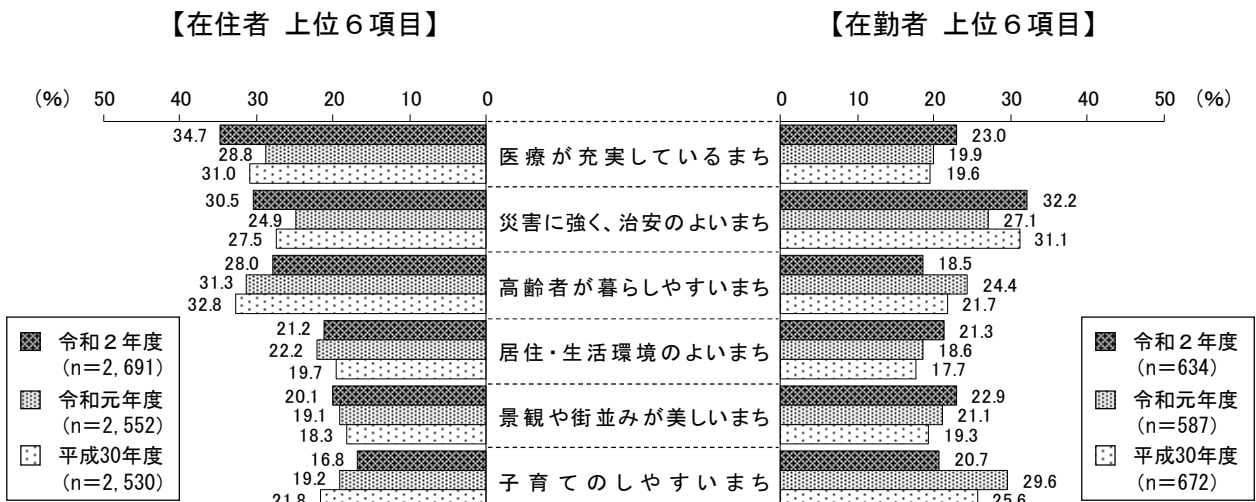
さいたま市のイメージについて聞いたところ、在住者・在勤者ともに「買い物など生活に便利なまち」と「交通の利便性が高いまち」が5～6割であった。また、「災害に強く、治安のよいまち」、「居住・生活環境のよいまち」、「子育てのしやすいまち」、「自然の豊かなまち」、「教育環境のよいまち」は、在住者が在勤者より10ポイント以上高かった。一方、「スポーツの盛んなまち」は、在勤者が在住者より9.9ポイント高かった。



★さいたま市が、今後どのようなようになればよいですか。

■在住者は「医療が充実しているまち」、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が1位

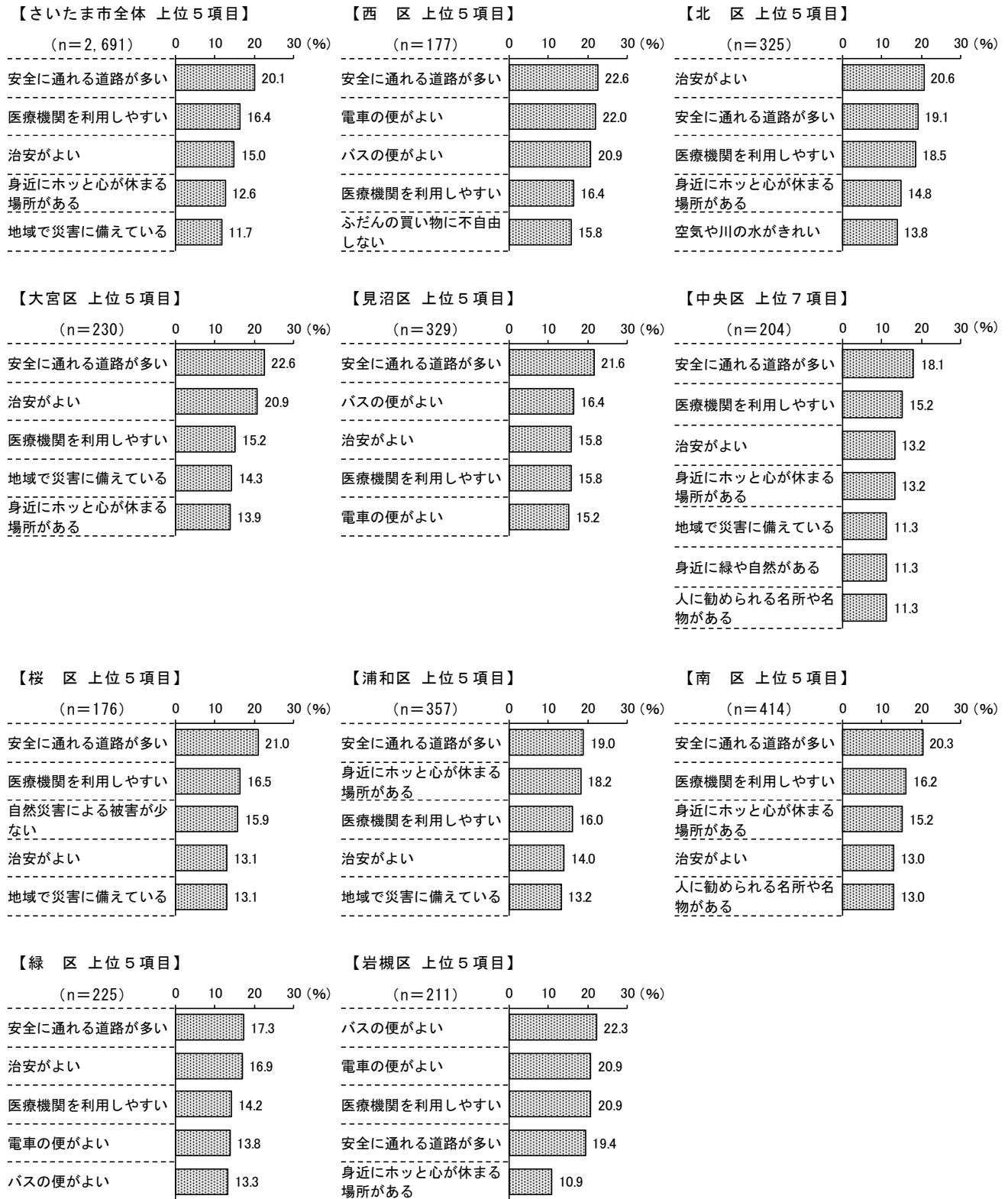
さいたま市の今後の発展の方向性について聞いたところ、在住者と在勤者で順位に違いはあるものの、上位6項目は同じであった。その中で、在住者は「医療が充実しているまち」が、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が、それぞれ1位となった。



★お住まいの「地域」が、今後どのようになればよいですか。

■「安全に通れる道路が多い」が、10区中8区で1位

お住まいの「地域」の発展の方向性を3つまで聞いたところ、「安全に通れる道路が多い」が10区中8区で1位となり、残る2区でも4位以内に入った。また、「医療機関を利用しやすい」はすべての区で、「治安がよい」は10区中8区で4位以内に入った。

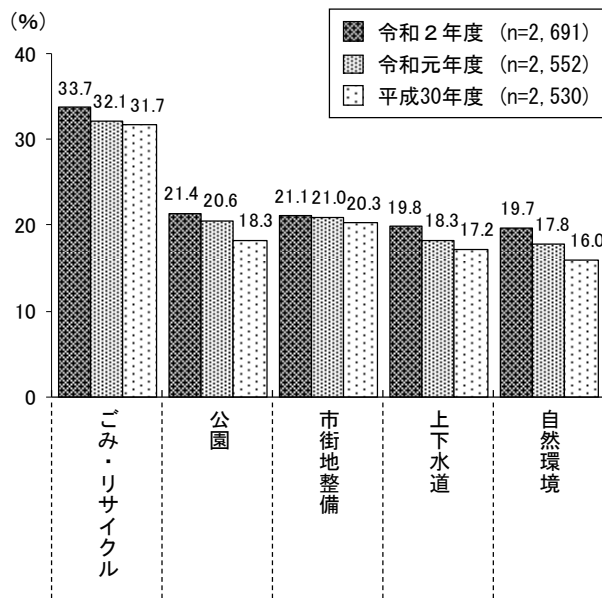


★「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度・不満度(上位5項目)

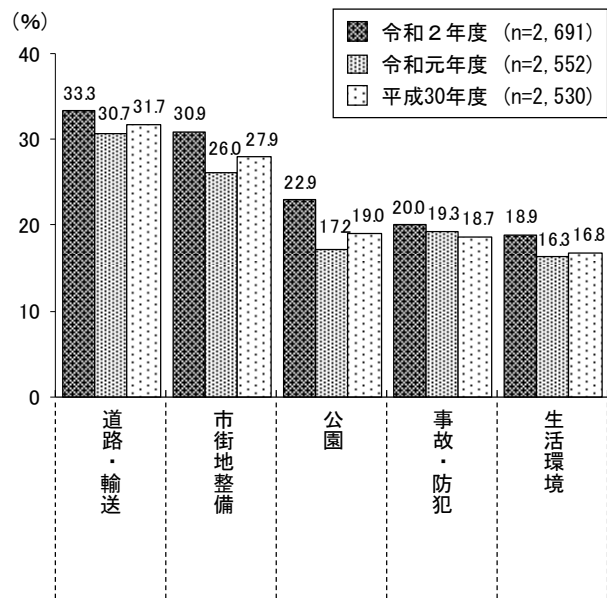
■満足度1位は「ごみ・リサイクル」、不満度1位は「道路・輸送」

各施策や事業の満足度を聞いたところ、満足度は、「ごみ・リサイクル」(33.7%)、不満度は、「道路・輸送」(33.3%)が最も高かった。「公園」「市街地整備」は満足度、不満度ともに上位3項目に入った。

【満足度 上位5項目】



【不満度 上位5項目】

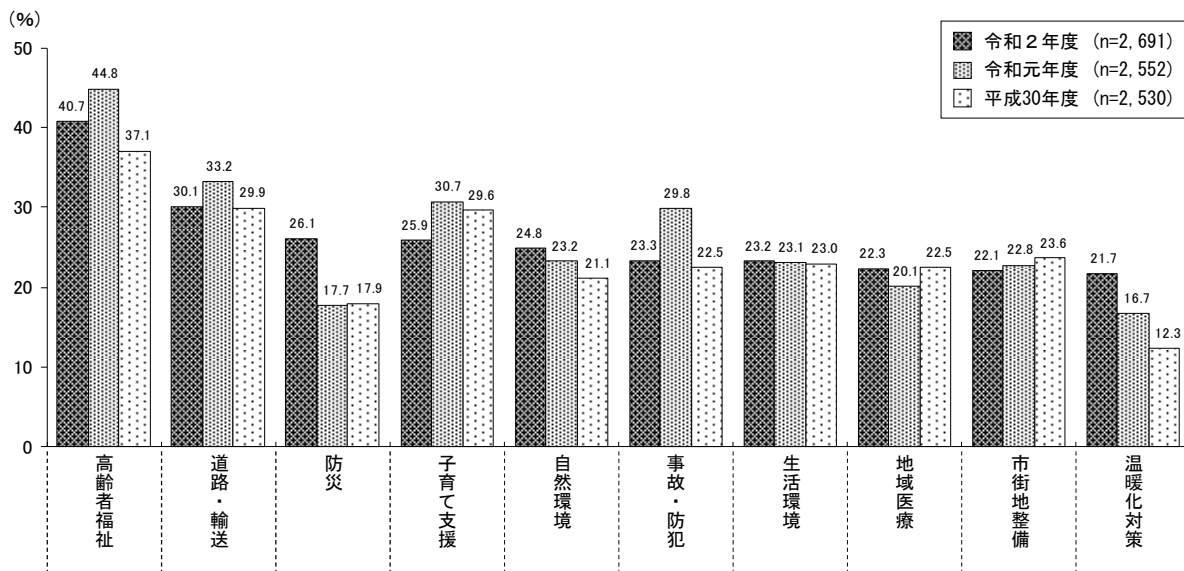


★今後、特に力を入れて欲しい施策や事業(上位10項目)

■「防災」が大きく上昇

今後、特に力を入れて欲しい施策や事業を5つまで聞いたところ、「高齢者福祉」が40.7%で最も高く、「道路・輸送」(30.1%)、「防災」(26.1%)が続いた。

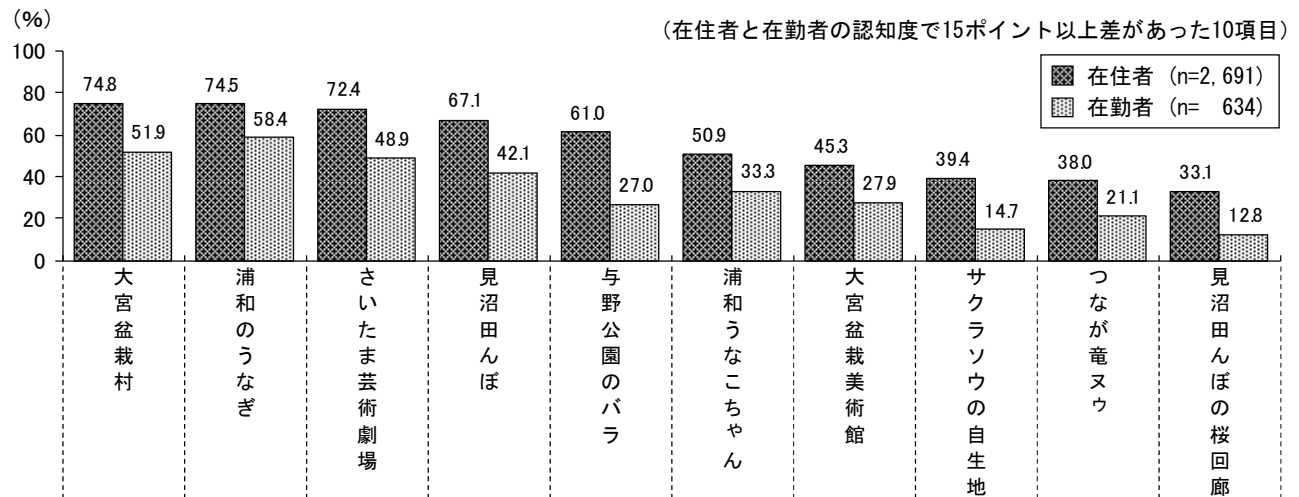
過去2年間の調査結果と比較すると、「防災」が令和元年度より8.4ポイント増加し、第3位となった。



★さいたま市について知っているものは何ですか。

■認知度で在住者が在勤者を最も大きく上回ったものは「与野公園のバラ」

さいたま市について知っているものを聞いたところ、在住者と在勤者の差が特に大きかったものは「与野公園のバラ」（34.0ポイント差）、「見沼田んぼ」（25.0ポイント差）、「サクラソウの自生地」（24.7ポイント差）であった。

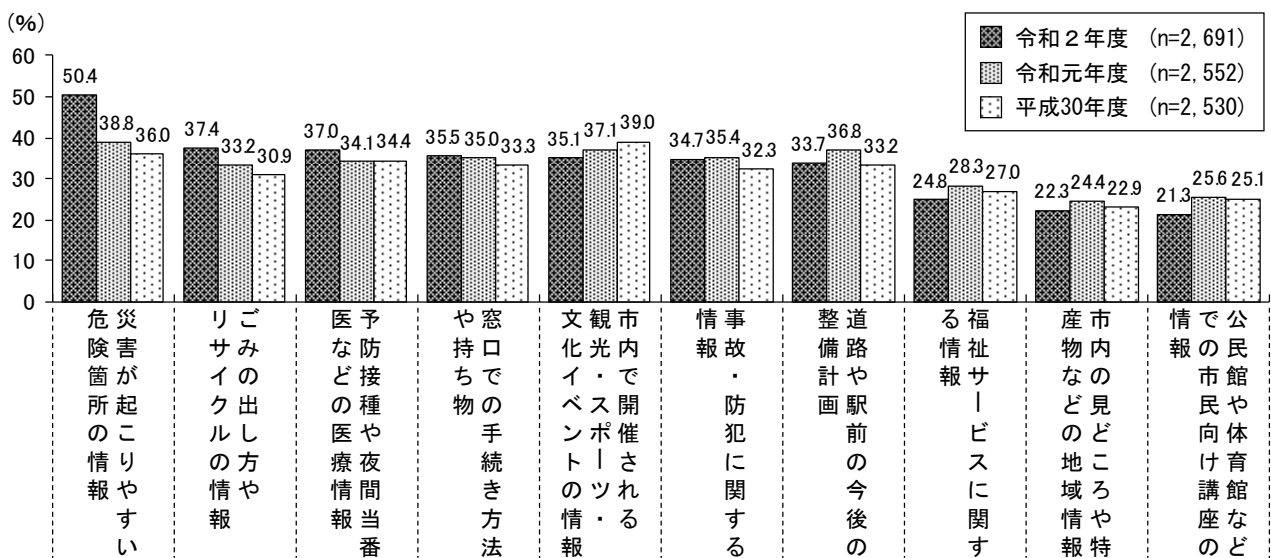


★市役所からの情報で、特に知りたいものは何ですか。(上位10項目)

■「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が大きく上昇

市役所からの情報で特に知りたいものを聞いたところ、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が50.4%で最も高く、「ごみの出し方やリサイクルの情報」(37.4%)、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」(37.0%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が令和元年度より11.6ポイント増加した。

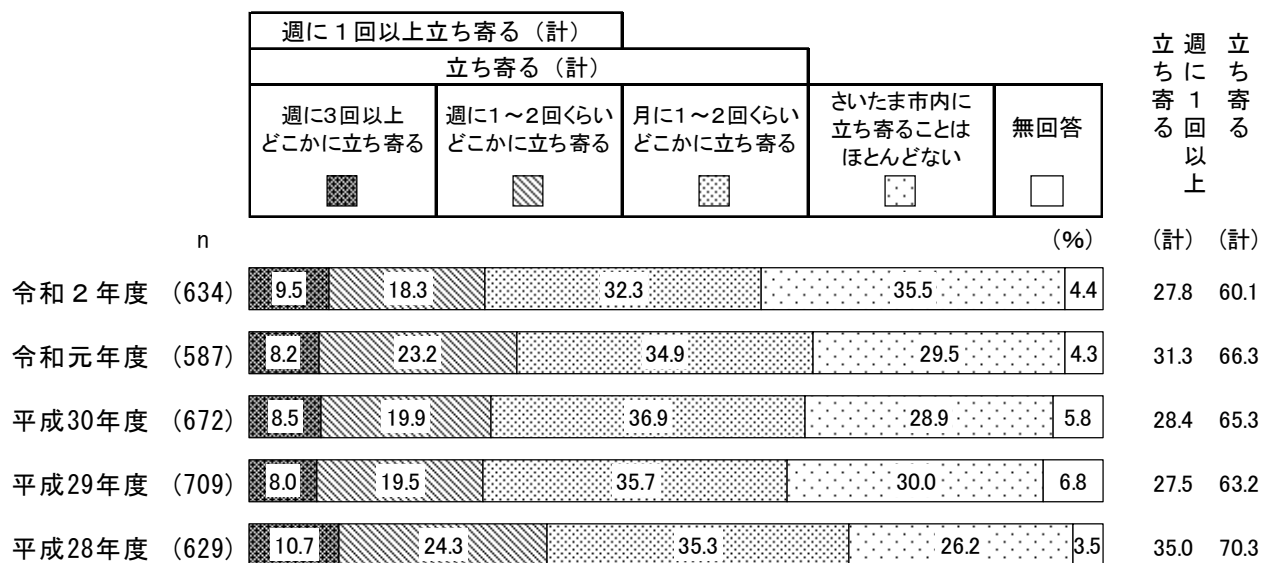


★在勤者に、仕事のあとのさいたま市内での活動について聞きました。

■さいたま市内に「週に1回以上立ち寄る」人は約3割

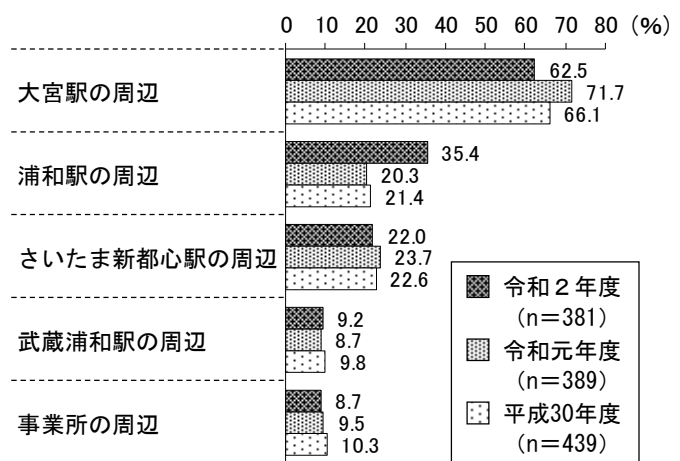
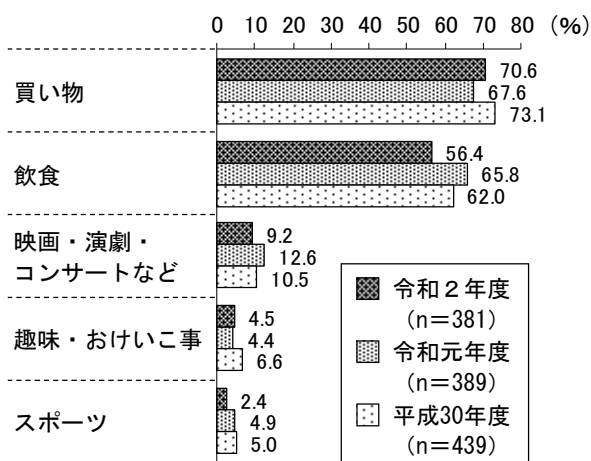
在勤者に、仕事のあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄ることがあるか聞いたところ、「週に3回以上どこかに立ち寄る」(9.5%)と「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」(18.3%)を合わせた『週に1回以上立ち寄る(計)』は、27.8%であった。さらに「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」(32.3%)を合わせた『立ち寄る(計)』は、60.1%であった。

過去4年間の調査結果と比較すると、『立ち寄る(計)』は最も低く、令和元年度より6.2ポイント減少した。



■立ち寄る目的は「買い物」、「飲食」

■立ち寄る場所は「大宮駅の周辺」



在勤者が仕事のあとに立ち寄る目的は、「買い物」(70.6%)と「飲食」(56.4%)が高かった。立ち寄る場所は、「大宮駅の周辺」が62.5%で最も高く、「浦和駅の周辺」(35.4%)、「さいたま新都心の周辺」(22.0%)が続いた。

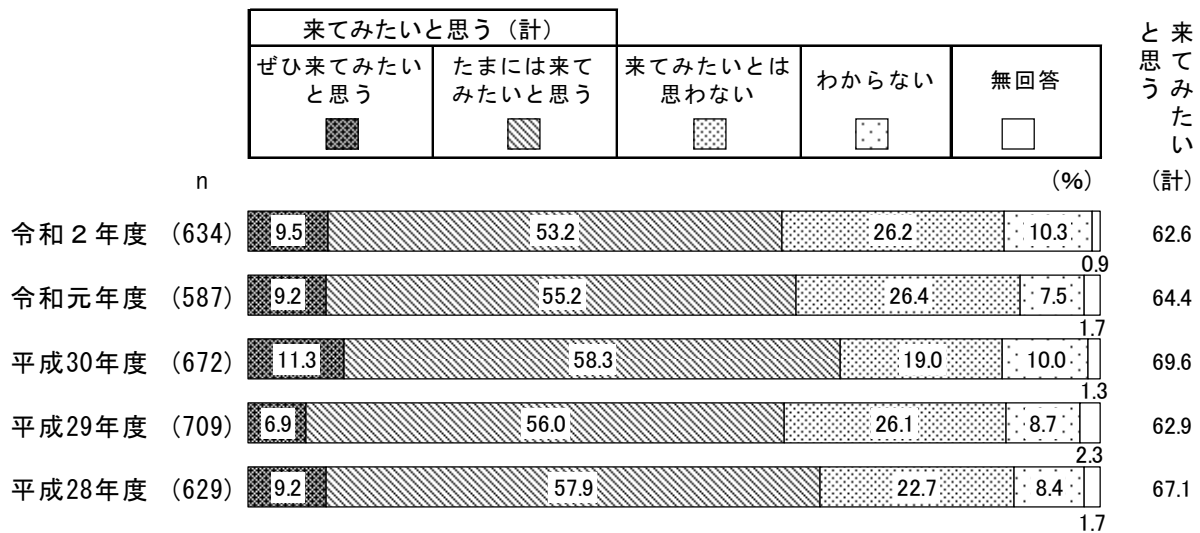
過去2年間の調査結果と比較すると、令和元年度より、立ち寄る目的は「飲食」が9.4ポイント減少し、立ち寄る場所は「浦和駅の周辺」が15.1ポイント増加した。

★在勤者に、仕事が休みの日にさいたま市に来てみたいと思うか聞きました。

■さいたま市に「来てみたいと思う」人は6割超

在勤者に、仕事が休みの日に買い物や遊びでさいたま市に来てみたいと思うか聞いたところ、「ぜひ来てみたいと思う」（9.5%）と「たまには来てみたいと思う」（53.2%）を合わせた『来てみたいと思う（計）』は、62.6%であった。

過去4年間の調査結果に引き続き、『来てみたいと思う（計）』は6割台で推移している。



令和2年度 さいたま市民意識調査（概要版）

発行 さいたま市 市長公室 広聴課
〒330-9588
さいたま市浦和区常盤 6-4-4

電話 048 (829) 1931 (直通)
FAX 048 (825) 0665

調査実施 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052
さいたま市浦和区本太 2-2-36
SUNCREST 302
電話 048 (887) 3790

[このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、225万円です。]